

G20 サブサハラ・アフリカ会合における
菫浦外務大臣政務官によるスピーチ（案）
（平成 27 年 10 月 1 日：トルコ・イスタンブール）

1. 冒頭挨拶

アラブユン大臣（議長）、
G20 及びサブサハラ・アフリカ各国の関係閣僚の皆様、

- 今般、歴史あるイスタンブールの地を訪問し、本会合に出席できることを、非常に嬉しく思っております。
- アラブユン大臣をはじめ、トルコ政府のリーダーシップとホスピタリティに対して、心から感謝の意を申し上げます。

2. エネルギー・アクセスの重要性

- 「万人のために、安価で、信頼できる、持続可能で近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」という課題は、人々の生活の質の改善のみならず、世界経済の持続的発展の観点からも重要です。
- 「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」においても、エネルギー・アクセスに係る目標が盛り込まれるなど、非常に重要な国際社会の課題になっています。
- G20 議長国トルコがエネルギー・アクセスの問題を優先課題に設定したことを高く評価します。また、先ほど紹介がありました「エネルギー・アクセス行動計画」の策定に向けた、SE4ALL の御尽力に対しても感謝いたします。
- 我が国としては、本計画の策定に当たって、実際に実施される国の視点に立つことが重要と考えております。本日の議論を踏まえ、現地産の化石燃料や再生可能エネルギーの活用の可能性、ニーズ、エネルギー戦略など、各国の置かれた環境を十分に勘案した上で、G20 としての支援を展開していくことが重要との立場です。

3. 本分野における日本の対アフリカ支援

- アフリカは、高い経済成長を遂げていますが、同時に様々な課題も抱えています。日本は、20年以上にわたるアフリカ開発会議（TICAD）プロセスを通じ、アフリカの「オーナーシップ」と国際社会の「パートナーシップ」を重視し、アフリカとの関係強化に取り組んできました。
- 平和を基礎とし、成長の果実が広く社会に行き渡る「質の高い成長」の実現を目指し、特に、インフラや人材育成を重視しており、官民双方による支援を強化していく所存です。
- エネルギー・アクセスの分野においても、アフリカに対する支援を積極的に進めてきました。我が国はODAを通じ、2009年～13年の5年間で、累計約100億ドルに上る途上国支援をエネルギー分野に振り向けています。
- そのうち、サブサハラ・アフリカにおいては、12か国において、電力インフラ整備支援等を通じたエネルギー・アクセスの向上に貢献して参りました。
- 今後も、G20の枠組みにおいても、我が国の経験を共有するなど、サブサハラ・アフリカにおけるエネルギー・アクセスの向上に向けて、引き続き、貢献していきたいと考えています。

4. 締めの一言

- 最後となりましたが、本日の会合における実りある議論の成果が十分に活かされ、サブサハラ・アフリカ、ひいては、世界全体のエネルギー・アクセスの向上に寄与することを祈念して、結びの言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。

（了）